

武蔵野市男女平等に関する意識調査 項目(案)

紙の調査票にお進みいただいた方は、インターネットで回答いただく必要はございません

1. あなた自身について

F 1 あなたが自認する性別

1. 男性 2. 女性 3. その他

F 2 年齢

1. 18～19 歳 4. 30～34 歳 7. 45～49 歳 10. 60～64 歳 13. 75～79 歳
2. 20～24 歳 5. 35～39 歳 8. 50～54 歳 11. 65～69 歳 14. 80 歳以上
3. 25～29 歳 6. 40～44 歳 9. 55～59 歳 12. 70～74 歳

F 3 職業

1. 自営業主（家族従業員を含む）、自由業 5. 学生
2. 正社員・役員、正職員 6. 家事専業（主婦、主夫）
3. パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など 7. 無職
4. その他（具体的に ）

F 4 婚姻の有無

1. 未婚 2. 有配偶者（事実婚含む）→ **F 4 - 1 へ** 3. 離別・死別

F 4 で「2 有配偶者（事実婚含む）」と回答した方にお聞きします。

F 4 - 1 あなたの現在の就労状況

1. 共働き（パート・アルバイトを含む）である 2. 共働きではない

F 5 世帯構成

1. ひとり暮らし 3. 親と未婚の子ども（たち） 5. 親と子どもと孫
2. 夫婦のみ 4. 親と子ども夫婦 6. その他（ ）

2. 日頃の生活について

問1 あなたは、現在、日常生活において、家事や育児、介護をしていますか。また、している場合は、どの程度時間をかけているかを合わせてお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

【ア 育児】(身の回りの世話、付き添い、送迎移動など)

1. している 2. していない 3. 該当しない(育児の対象となる家族がいない)

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上
1日の平均時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9

【イ 介護】(身の回りの世話、付き添い、送迎移動など)

1. している 2. していない 3. 該当しない(介護・看護の対象となる家族がいない)

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上
1日の平均時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9

【ウ 家事】(食事の管理、住まいの手入れ・整理、衣類の手入れなど)

1. している 2. していない

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上
1日の平均時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問2 あなたは、職業以外の社会活動、地域活動(ボランティア、NPO、コミュニティセンター、PTA、趣味・サークル・スポーツ等の活動)に参加していますか。(〇は1つ)

1. 参加している 2. 参加したいができていない 3. 参加するつもりがない

問2で2.参加したいができていないと回答した方にお聞きします。

問2-1 あなたが参加できていないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 仕事が忙しいから | 6. 一緒に活動する仲間がいないから |
| 2. 参加方法がわからない、きっかけがないから | 7. 近くに活動の場がないから |
| 3. 経済的余裕がないから | 8. 参加したいと思う活動がないから |
| 4. どのような活動があるかわからないから | 9. 家族の理解や協力がないから |
| 5. 家事や育児・介護などが忙しいから | 10. その他(具体的に) |

3. ワーク・ライフ・バランスについて

問3 性別にかかわらず、すべての人がともに働きやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 長時間労働を是正すること
2. 短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができること
3. ワーク・ライフ・バランスに理解がある上司がいること
4. 働くことについて家族や職場の理解と協力があること
5. 育児・介護休業時の経済的補償を充実すること
6. 育児や介護で退職しても、同じ条件で復職できる制度があること
7. 育児や介護について職場の理解と協力があること
8. 保育サービスを充実すること
9. 介護サービスを充実すること
10. 育児や介護について地域で助け合うこと
11. 再就職・再チャレンジがしやすくなること
12. 「男は仕事、女は家事・育児」という社会通念を改めること
13. その他（具体的に _____)
14. わからない
15. 特にない

問4 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお伺いします。

(1) 理想に近いものを選んでください。(〇は1つ)

1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先
3. 「個人の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」を優先
5. 「仕事」と「個人の生活」を優先
6. 「家庭生活」と「個人の生活」を優先
7. 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて

(2) 現実に近いものを選んでください。(〇は1つ)

1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先
3. 「個人の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」を優先
5. 「仕事」と「個人の生活」を優先
6. 「家庭生活」と「個人の生活」を優先
7. 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて

問5 男性が家事等（家事・育児・介護・地域活動）に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性の家事等への参加について女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族でコミュニケーションをよくとること
4. 年配者などまわりの人が、当事者の考え方を尊重すること
5. 男性の家事等について社会的な評価を高めること
6. ワーク・ライフ・バランスに理解がある上司がいること
7. 長時間労働の是正や在宅勤務など多様な働き方ができること
8. 啓発や、相談窓口の設置、研修を行うこと
9. 男性の仲間作り
10. その他（具体的に _____)
11. わからない
12. 特にない

問6 あなたは、職場や地域の団体などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障壁となるものは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 必要な知識や経験を持つ女性が少ないこと
2. 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
3. 職場や地域の団体のメンバーが女性のリーダーを望まないこと
4. 顧客など外部の関係者が女性のリーダーを望まないこと
5. 長時間労働の改善が十分ではないこと
6. 管理職になると広域異動が増えること
7. 家事・育児・介護などにおける家族の支援が十分ではないこと
8. 保育や介護の公的支援が十分ではないこと
9. その他（具体的に _____)
10. わからない
11. 特にない

4. 男女平等意識について

問7 あなたは次にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇 されている	男女の地位は 平等になっている	どちらかといえば 女性の方が優遇 されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
ア. 家庭生活の場で	1	2	3	4	5	6
イ. 職場で	1	2	3	4	5	6
ウ. 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
エ. 地域社会（町会、自治会など）で	1	2	3	4	5	6
オ. 政治の場で	1	2	3	4	5	6
カ. 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
キ. 社会通念・習慣・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
ク. 社会全体では	1	2	3	4	5	6

問8 あなたは、次にあげるような考え方について、どのように思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえ ば そう思う	どちらともい えない	あまりそうは 思わない	そうは思わ ない
(1) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
(2) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい	1	2	3	4	5
(3) 希望する者には夫婦別姓を認めてもよい	1	2	3	4	5
(4) 男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい	1	2	3	4	5

**問9 児童・生徒の男女平等の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取り組みは何だと思
いますか。(〇はいくつでも)**

1. 男女が協力して物事を進める必要性を学ぶこと
2. ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと
3. 命の大切さに気づき、自他の命を尊重することを学ぶこと
4. 人権尊重の視点に立った性教育を充実させること
5. 家庭や家族の多様なありかたについて学ぶこと
6. 生活指導や進路指導に置いて、男女の別なく能力を生かせるよう配慮すること
7. 性に関する相談の機能を充実させること
8. デートDV（交際相手からの暴力）や性犯罪の加害者や被害者となることを防ぐための教
育を早期から行うこと
9. 性産業に巻き込まれないための教育を早期から行うこと
10. 子どもの健全な育成に向けてメディア・リテラシーの能力を高めること
11. 教職員を対象とした男女平等の研修を実施すること
12. 管理職（校長や副校長）に女性を増やしていくこと
13. その他（具体的に)
14. わからない
15. 特にない

**問10 あなたは、性別にとらわれない災害対策を進めるために、どのようなことが重要だと思
いますか。(〇はいくつでも)**

1. 防災分野の委員会などに、より多くの女性が参加できるようにする
2. 災害対応や復興に女性の視点が活かされるよう、女性リーダーを育成する
3. 災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等の視点を入れる
4. 避難所で性別に応じてプライバシー（更衣・授乳など）が確保できるようにする
5. 女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、相談窓口を設置する
6. 消防職員・消防団隊員・警察官・自衛官・自治体職員などについて、防災現場に女性が十分
配置されるよう、採用や登用を含めて留意する
7. その他（具体的に)
8. わからない
9. 特にない

7. 暴力やハラスメントについて

問 14 あなたは親密な間柄で起きる次のような行動を、暴力にあたると思いますか。(○はそれぞれの数字に1つずつ)

また、これまでに配偶者(事実婚や元配偶者を含む)や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(○はそれぞれのアルファベットに1つずつ)

	どう思うか			されたことがあるか		
	あたると思う	どんな場合でも暴力に そうでない場合もあると思う	暴力にあたる場合も、 暴力にあたるとは思わない	何度もある	1、2度ある	まったくない
(1) 平手で打つ	1	2	3	A	B	C
(2) 大声でどなる	1	2	3	A	B	C
(3) 外出などを制限する	1	2	3	A	B	C
(4) 交友関係や電話・メールを細かく監視する	1	2	3	A	B	C
(5) 何を言っても無視する	1	2	3	A	B	C
(6) 相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない	1	2	3	A	B	C
(7) なぐるふりをしておどす	1	2	3	A	B	C
(8) 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと侮辱的なことをいう	1	2	3	A	B	C
(9) 生活費を十分に渡さない	1	2	3	A	B	C

問 15 あなたは過去5年間に、ハラスメントを受けた経験がありますか。(○はいくつでも)

1. セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある
2. モラル・ハラスメントを受けたことがある
3. マタニティ(パタニティ)・ハラスメントを受けたことがある
4. 性的マイノリティに関するハラスメントを受けたことがある
5. その他(具体的に)
6. 受けた経験はない

8. 市の施策について

問 19 あなたは、次の言葉や武蔵野市の取り組みを知っていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	内容まで一応 知っている	聞いたこと はある	知らない
(1)武蔵野市男女平等の推進に関する条例	1	2	3
(2)武蔵野市第四次男女平等推進計画	1	2	3
(3)武蔵野市立男女平等推進センター 「ヒューマンあい」	1	2	3
(4)男女平等推進雑誌『まなこ』	1	2	3
(5)武蔵野市パートナーシップ制度	1	2	3
(6)配偶者暴力防止法	1	2	3
(7)ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3

問 20 あなたは男女平等社会を実現するための武蔵野市の施策として、どのようなことを望みますか。

(○はいくつでも)

1. 男女平等に関する講習会や学習機会の充実
2. 男女平等に関する相談窓口の充実（性別に基づく差別的な取り扱いなどへの相談）
3. 男性のための悩み相談
4. 男女平等に関する情報誌や図書、資料コーナーの充実
5. 女性のキャリアアップ、起業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援
6. 「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の普及・啓発
7. 保育・介護制度の充実
8. 女性の生涯を通じた健康支援
9. ワーク・ライフ・バランスに関する施策の充実
10. 男性に向けた男女平等に関する啓発
11. 地域コミュニティでの男女平等の推進
12. 防災活動・震災準備での男女平等の推進
13. 学校での男女平等意識を育てる教育の推進
14. 配偶者間の暴力（DV）への対策
15. 市の審議会などへの女性の参加推進
16. 性の多様性の理解促進・支援体制の整備
17. 男女平等に関する活動をする団体への市民の参加促進
18. その他（具体的に)
19. わからない
20. 特にない

問 21 あなたが日ごろから男女平等について感じていることや、市の施策についてのご意見等がありましたらご自由にお書きください。

.....

.....

.....

.....

ご回答ありがとうございました。

ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
切手を貼らずに、●月●日(●)までに、ポストに投函してください。